



知りたい 地域医療

町立下川病院
診療放射線技師
江口正裕



高速マルチスライス CT稼働しています！

こんにちは、町立下川病院診療放射線技師の江口正裕です。

さて、今回は昨年9月から稼働開始した、高速マルチスライスCTについて経過報告をさせていただきます。

まずガラッと変わったのは、一般X線写真よりもハッキリと状況把握のしやすさにあります。現在では、ひと月に60件〜70件以上の検査数を実施しておりますが、何かあやしい箇所が見受けられれば、すぐCTチェックが可能です。この利

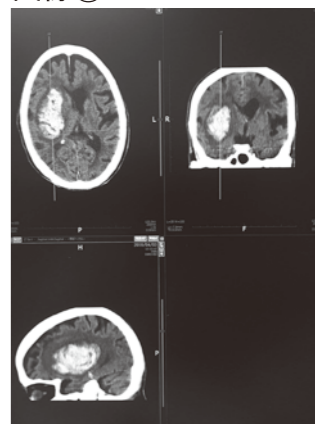
便性はかなり大きいものがあると思います。特に脳出血系での診断においては、断トツの実績を持つ機器ですし、X線画像診断の筆頭にある機器です。

ここで、CT画像を交えていくつかが説明させていただきます。

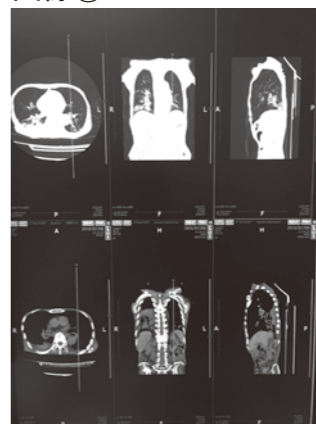
画像①と②をご覧ください。脳のCT画像と胸部のCT画像ですが、一昔前までは、大根の輪切りのようなタイプの画像だけで判断していました。しかし現在では、短時間で複数タイプの画像を計算して算出し、診断に活かすことが可能となりました。

施設によっては、複数タ

画像①

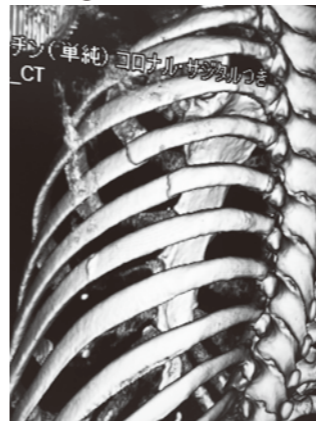


画像②



イプの画像はデータ容量と時間的な制約の中で昔ながらの画像を基本とするのも多いのですが、より多断面での診断が有利となります。当院では、複数の多断面の画像提供を基本としています。プラスチックとして、立体3D画像、1ミリスライス高精度画像を必要時追加することになって

画像③



画像③④⑤をご覧ください。③肋骨の3D画像を斜め後ろから眺めたところ、④腰の3D画像を正面から眺めたところ、⑤膝の3D画像を裏側から眺めたところです。たとえば肋骨骨折ですが、通常のX線写真で解することもありますが、内臓との重なりや脂肪との重なりで極めて判別できない骨折があることも事実です。そこで、CTを利用して3D画像を作成し、それを裏側から眺めたり、斜め横から眺めたりして、従来のX線写真では死角となるところを大いに補いつつ診断に役立てることができま

終わりに

今回のCT稼働も踏まえまして、名寄市立総合病院を中心とした地域医療ネットワークシステム、関東の放射線専門医による遠隔画像診断支援システム、院内電子カルテシステムを通して総合的な部分で町民の皆様をよりサポートできる医療ネットワーク体制が充実しました。これまでよりもお一層お役に立つことができたいと思います。何かの際にはどうぞご利用お待ちしております。

お問い合わせ

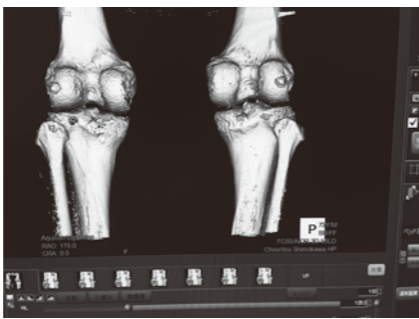
町立下川病院
☎・☆4-2039



画像④



画像⑤



画像⑥⑦⑧をご覧ください。⑥大腿骨頭部の3D画像、⑦骨盤の寛骨臼といわれる部分の3D画像、⑧腰の骨を横から1ミリスライスで確認していく為の画像です。どれも通常のX線写真では表現できない画像といえます。選択的にある骨を取り除いて、ターゲットの部分のみに焦点を当てて、画像を再度構成させて

いくことは、以前はできないことでありましたが、見えない死角であった部位を確認する大きな手助けとなる画像です。

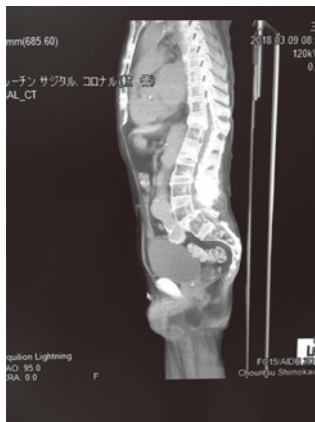
画像⑥



画像⑦



画像⑧



その後、検査までの待ち期間・検査時間はどのような状況か？
CT検査につきましてもまずは診察に掛かっていただく必要はもちろんですが、最大のメリットは現段階ですが、待ち時間が少ないことです。平日の診療時間内であれば、食事制限等がある場合等を除いてその日のうちに検査できるケースがほとんどです。大病院だと1か月後2か月後の検査予約と聞いたことがありますが、かなりの長期間お待ちさせることは、症状等もすでに変化してしまうことが大いにあります。何か症状があればすぐに検査し易いことは、町民の皆様にとってかなり有利な条件になることと思います。町の財産でもある高速マルチスライスCTを大いに活用していきたいと思っております。